

「保健医療科学」
第67巻 第5号 予告

特集：WHO国際統計分類第11版（ICD-11）改訂およびICF、ICHIの導入に向けて（仮題）

WHO国際統計分類の歴史と改訂の国内導入について（仮題）……………	森桂，中山佳保里，及川美恵子
内科領域の概観：糖尿病関連領域を例として（仮題）……………	安田和基
外科領域におけるICD-11改訂の意義（仮題）……………	加藤真介
精神神経科領域におけるICD-11改訂の意義（仮題）……………	松本ちひろ
眼科領域におけるICD-11改訂の意義（仮題）……………	柏井聡
消化器領域におけるICD-11改訂の意義（仮題）……………	秋山純一
東洋医学におけるICD-11改訂の活用（仮題）……………	渡辺賢治
国際生活機能分類（ICF）の活用（仮題）……………	大冢賀政昭
診療情報管理における改定の普及について（仮題）……………	横堀由喜子
医療行為に関する国際標準（ICHI）動向について（仮題）……………	川瀬弘一
ICD11の情報学的意味とフィールドトライアルについて（仮題）……………	水島洋，佐藤洋子

編 集 後 記

今回の特集のテーマは、「今改めて保健師の専門性とは—ジェネラリストというスペシャリティー—」である。保健師は公衆衛生の一翼を担っているが、その活動は看護師や助産師と比較すると見えづらいところがある。今回の特集では様々な切り口から保健師の活動が取り上げられており、保健師の実践活動の充実と関係者の理解の深化に寄与することが期待される。

平成は間もなく幕を閉じようとしているが、いつの時代も保健師活動は人々の暮らしに根差し、住民の声なき声をすくい上げ、より良い社会の構築に貢献することを目指してきた。その原点を想起させる一助となる御歌を読者の皆様にご紹介して稿を終えたい。これは平成30年の歌会始において、秋篠宮文仁親王妃紀子殿下がお詠みになられたものである。人びとの暮らしに寄りそふ保健師らの語る言葉にわれ学びけり

（生涯健康研究部 吉岡京子）